

学校
法人 内丸学園
盛岡幼稚園

園報

第 267 号
(12月)
2023

再び考える力を育むについて

学校法人内丸学園 盛岡幼稚園 理事長 坂本 洋

このところ次代に生きる人々の必要な能力・資質の育成に関心をもち続けております。ソサイティ 5.0 の到来、AI (人工頭脳) 時代、ICT (情報通信技術) 時代と言われる世の中で、社会生活を営む上で何が最も必要な能力か。その中の一つには本質を見抜く力、深く考え、思考する能力が一段と求められると思います。

余りにも複雑多様な機能が進み、多くの情報が拡散し何が真実で、正しい情報は何か、フェイク情報や流言・デマ等が乱れる中で、本質を見極める困難な時代の必要な能力です。

このような状況では、問題の本質を見極める考える力、思考力を

基本とした判断力、行動力が、最も必要な力だと思えます。これまでも幼児教育の中で重視した課題でしたが、さらに強化して幼児期からの考える力の育ちに関心を向けなければなりません。

さて、考える力・思考力を育てるためには、どのような手立てや取り組みが必要か。その基本は、まずは話す力、聞く力の育ちが重要です。話す力を育てることは、自分の考えを整理し何を伝えたいか、ポイントは何かを磨くこととなります。このことを伸ばし磨くことには、親や保育者が意図して対応・話すことが有効だと実証されております。子ども同士の対話では中々身につきません。

大人との会話では、「なぜ」「どうして」「誰が言ったの」「あなたはこう思う、感じる」「本当の話かな」等々を重視して対話することにより、子どもなりにより深く考えて話すようになります。このことが非常に大切で、次第に子ども自身が話す力に自信をつける思考力の芽生えです。また聞く力、絵本の読み聞かせ等でのかわり言葉の表現力や語彙数が豊富になり、身近な大人とのしつかりした会話を通して考える力の基礎が培われます。

次に今までも何度か園報で話題にしてきましたが、当園で重視してきた「遊びが学び」の思考力の芽生えを育てる四つの視点を述べます。①好きなことに挑戦、集中させる。好きなことに取り組む子どもは集中力が発揮され、試行錯誤を繰り返す夢中です。本児なりに色々考えて、思考力の基礎が養われております。②様々な体験をする環境づくり。色々な機会をとらえて幼児なりに取り組む環境を整える。そこから得られた体験を通し積み重ねられた知識や技能が、別の場面での新たな考えや思考力に発展します。③疑問や不思議

議と一緒に考え調べる姿勢。様々な事象に興味を持つようになること、その不思議に疑問や説明を求めることが多くなり、その時に即回答ではなく、一緒に考えてみよう、調べてみようの対応が、さらに考える力を養います。その過程は、話す力や聞く力も同時に伸ばせる機会です。④子どものすることに直ぐに手や口を出さない。子ども自身がやることに干渉することを極力控えること。子ども自身が悩み、困りながらも何とか考え、調べ取り組むことで、子どもの主体性や自主性を養う良い機会でもあります。

改めて保護者の方々のご協力を得て、ご家庭での子ども達との豊富な会話を話し話す力、聞く力を深めていただき、その土台の上に施設での、より考える力、思考力の芽生えを強化する体験が、次代に生きる必要な能力・資質を身に着ける急務だと考えます。



子どもの遊び・生活から

まじまじ見たトトロランドー

A クラス担任 齋藤 由紀乃

ずっと楽しみにしていたトトロランド。昨年 B クラスだけでのお店屋さんごっこの経験もあり、今年 A クラスが中心となったたくさんのお客さん呼びお屋さんを開くことを楽しみに、張り切って準備に取り組みました。中には、「1 学期から「トトロランドで売る杖にする」と早々に準備していた子もいました。お店ごとに準備を進めて行く中で、年下の子が喜ぶ品物を考えたり「カップならお家にあるかも」とお家を探して持ってきてくれたり、「たくさんのお客さんが来たら景品が足りないかも」と朝の時間やお家で作って来る子もいました。クラス全員でトトロランドに気持ちが向かっていることを実感しながら準備期間も楽しむことができました。

当日の朝、お店を何度もチェックしたり店員とお客になってやりとりの確認をしたりと、楽しみ過ぎてそわそわしている子ども達。



「どれが良いですか？」

「いらっしやいませー」と大きな声の呼び込みで始まりました。買い方や遊び方が分からない子には目線を合わせて教えてあげている姿、「お客さん来たからそつちお願い」とお客さんがどんどん来ても声を掛け合って自分達でお店を進めたりと、一つ一つの姿に成長を感じました。たくさんのお客さんに「ありがとう」と言われる喜びや、作った品物が売れる達成感もあり、子ども達の表情は満足そうでした。大盛況で終わったトトロランドは次の日も続きました。

お店やさんごっこ

B クラス担任 竹岡 真美

A クラスが開いてくれたトトロランドに、B クラスの子ども達も楽しんで参加しました。お目当てのものを買ったり、射的に夢中になったり、シヨーに飛び入りで参加したり：当日だけでなく、翌日も続けて楽しませてもらいました。

そこで、今度は B クラスがお店を開いてみることを提案すると、みんな大喜びで、「今日やりたーい！」という子達もいました。やる気は認めながら話をしていくと、いろいろ準備が必要だよね、ということになり、数日かけて品物作りなど準備に取り組みしました。普段から『〇〇やさん』の遊びも制作も好きな子ども達なので、これまでの遊びの経験がこのお店屋さんごっこにも生きていました。また、「A クラスさんみたいに作りたい」とトトロランドで見た品物の作り方を真似する子達もいて、A クラスの姿が刺激になっっていると感じました。

そして12月7日、開店！どのお店も張り切って、「いらっしやいませー！」と大きな声を出して

ました。賑やかすぎて、お客さんとして来てくれた C クラスを驚かせてしまったかもしれないが、自分達が用意した品物を買ってもらえて嬉しそうでした。スズランテープ製の三つ編みを髪につけてあげたり、品物を選ぶ子にしゃがんで話しかけたり、年下の子との関わりで微笑ましい姿もありました。

来年、パワーアップしたみんなのトトロランドが楽しみです。

最近のいきいっ

C2 クラス担任 石田 雪乃

歌やダンスが好きな子が多く、日々いろいろな曲が聞こえる保育室。どの子も主役の表情で自分なりの表現を楽しんでいます。ある時から、椅子が並び、観客席が作られました。座って友達を応援したり、次の出番を待ったりと、自然と集う子ども達。曲が終わわり、「これでおわります！」の挨拶もいつからか定番となり、その声を聞いて、離れたところで遊んでいた子も拍手をしていました。決してみんなが同じイメージをもっていったわけではないですが、楽しい雰囲気を取り回らなっていく

き、子ども達の得意な真似っこから遊びが広がっていった場面でした。一学期よりも少しずつ友達へと興味が広がり、関わって遊ぶ面白さを感じているからこそ見えてくる姿がたくさんあり、うれしく思います。

二学期は様々な行事を通して、一人一人が自信を得たり、発見を楽しんだりしてきました。友達が気になる存在になったのももちろんですが、CクラスにとつてAクラスはやっぱり憧れの存在のようです。トトロランドでは心が動いた子も多く、当日飛び入りと一緒にステージで踊ったり、翌日から真似て制作遊びを楽しんだりする子もいました。異年齢での関わりが、子ども達の遊びを豊かにすることも実感する日々です。今後も、集団生活だからこそ経験できることを一緒に楽しみながら、成長を支え見守っていききたいと思います。

日々の保育から

ふたばクラス担任 林崎 裕子

今年度は六名でスタートしたふたばクラス。現在在籍八名になりました。園では一番小さいクラスですが、少しずつ『赤ちゃん』を

卒業しつつあります。

最近では、自分で食べたいという意欲が出てきて、こぼしながらもスプーンやフォークを使って、時には、豪快に手づかみで食べています。自分のペースで食べられる喜びを感じているところです。かわいい姿を見ていると、もう少し手伝いたくなるのですが、「おいしいね」とそばで見守ることが大切な時期が来たのだと感じています。

食事の面だけではなく、おむつ交換の時には自分でスボンを脱ごうとしたり、外から帰ってきた時には、靴下を脱ごうとしたりする姿も見られるようになってきました。



「自分で脱げた！」

た。「上手に脱げたね」と声をかけると子どもたちもにっこり笑って返してくれます。小さな『できた』の体験をたくさん積み重ねてほしいと思っています。

そしてこれからも、子どもたちの成長を保護者の方々と一緒に喜びあいながら、見守っていかれたらと思います。

トトロハウスの取り組みについて

未就園児サークル

『トトロハウス』

担当 舟越 恵子

未就園児の集い『トトロハウス』は、子育て支援事業の一環として、子ども達の遊び場の提供、保護者同士の交流の場としてアットホームな感じで開催しています。

ままごとやパズル、積み木遊び、園庭での遊び、季節の制作等をお家の方や仲良くなったお友だちと一緒に楽しんでいます。特に園庭では、砂遊びが人気です。地域の公園での砂遊びの経験ができず、当園の砂場で、砂の感触や、型抜き、砂山作りを楽しんでいます。時には園庭で遊んでいる在園児

が、「これあげる！」とお花をプレゼントしてくれたり、「あそこにドングリあるよ！」と教えてくれる等、子ども達同士の心温まる場面も見られました。また、活動の中では、指絵の具で傘の模様を付けたり、でんぶん糊を使いながら折り紙を千切って紅葉の木を作る等、手の汚れも気にせず大胆に制作を楽しむ姿も見られました。参加当初は、初めての環境に戸惑い、人見知りをしていた子どもが、周りの子ども達に興味を示したり、遊びの中でやり取りもできるようになったりと、多くの笑顔と成長が見られたことを嬉しく思います。



「親子で七夕制作☆」

保護者の方から

作品展を鑑賞して

Bクラス 松澤 晶代（二伽）

作品展の入口を入るとパツと目を引く大きな木があり、そこを中心に色とりどりの作品が展示され「えほんのなかへ」引き込まれ、その空間に感動しました。

絵本をよく見ながら描く姿が想像できる絵は、大きさは色使いが様々で賑やかに楽しげな雰囲気を感じました。ぼつしやさんに並ぶ帽子は、好みの色や素材が組み合わされ、一人一人のこだわりを感じまし



「紙粘土制作 からすのパンやさん」

た。パンやさんには、紙粘土で作られたオンリーワンのパンが並んでいました。自分で考え、作られたオリジナルのパンはどれもおいしそうで、先生の陳列の仕方も相まって思わず手に取りたくまりました。

Cクラスの時と比べ、できることがこんなにも増えていることに改めて成長を実感しました。

普段から共に過ごす祖母も鑑賞し「個々の工夫が伝わってきて、みんな素晴らしかった。」と感心しておりました。娘もお友達の作品の素敵などころを発見し刺激を受けているようでした。これからも、毎日の活動で自分が感じたことを大切に、楽しむ姿を見守っていきたいと思えます。

日々の生活で見逃しがちな小さな成長の積み重ねを再確認させていただき、このような機会が与えられたことに深く感謝いたしております。

一年越しの保育参観

つぼみクラス 赤澤美智子（晴）

0歳の時は感染症の影響から開催出来なかつたので、今回の参観がとても楽しみでした。

0歳、1歳の運動会ではたくさんの方がいる環境に緊張して固まっ

てしまっていたので、参観日も緊張してしまっかな、大丈夫かな、と心配していましたがお部屋に入ると最初は緊張していた様子で

でしたが、元気に遊ぶ姿を見せてくれました。お返事もトップバッターで緊張して出来るかな、と心配でしたが、お返事が出来てびっくり。0歳から一緒のお友だちもみんな自分でトイレに行き、トレーニング。ヨチヨチ歩きだったのに出来るのがたくさん増え、大きくなったなあ、と実感しました。終了時間が近づくと、私が仕事へ行くことを察知し、泣き始めましたが、先生の抱っこですぐ泣き止み、先生との信頼関係もしっかり出来ていて、安心と少しの寂しさを感じました。

0歳からの入園は早いのかな、もつと一緒にいてあげた方が良かったのかな、と思ったことがありましたが、私達親だけでは与えきれないたくさんの刺激を受け、成長する子どもの姿から先生方には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。子どもの成長を間近で見られるのはこんなに嬉しい気持ちになるんだなど実感しました。来年の参観日も楽しみです。

編集後記

今年も早いもので締めくくりの時期を迎えました。猛暑だった夏、思うように遊べない日が続く中でも子ども達なりに遊びを工夫して遊ぶ姿がありました。そして秋の爽りの時期、たくさん「感謝の気持ち」でいっぱいになり、そして今「イエス様を迎える心の準備」の時を迎えています。

コロナが5類となった今年度は縦割りでの遊びも復活し、子ども達の遊び方にも変化が見られるようになってきました。当園の方針でもある「遊びが学び」に繋がるように、これからも子ども達の良き理解者でいられるよう、子ども達との共有できる時間を大切に過ごしていきたいと思います。皆様のご協力に感謝申し上げます。

学校法人 内丸学園

幼保連携型認定こども園

盛岡幼稚園

〒020-0001

盛岡市中央通一六四七

TEL 六二二二三〇一

理事長 坂本 洋